

ひろしま未来チャレンジビジョン改定素案，総合戦略素案
～第9回小委員会（7/6）の主な意見～

【チャレンジビジョン】

区分	委員意見
第1章 総論（目指す姿）	<p>▶ファミリー・フレンドリーは単身赴任の人も家族で広島に来てくださいという趣旨と思うが、シティカル・ライフも家族で来てもらうことを推奨するというふうに見えるがどうか。</p> <p>▶キーワードは日本語でも良いのでは。特にファミリー・フレンドリーは、伺った内容なら「子育てしやすい」とか言ってしまえば良いと思う。文章を読むと分かるが、理解に時間がかかる。</p> <p>▶基本理念から目指す姿，4つの挑戦へとブレイクダウンする形の現行ビジョンに比べ，目指す姿や視点のところで背景や理由，課題がまた出てきて，計画の作りとして分かりにくい。例えばこの3つを新しい挑戦のキーワードと位置付けると分かりやすい。イノベーションは新しい活力を生み出す産業創造のチャレンジのキーワード，シティカル・ライフは新しいライフスタイルを作り上げていくチャレンジのキーワード，ファミリー・フレンドリーとシティカル・ライフの差はよく分からないが，人づくりの新しいチャレンジのキーワードとすれば，ここの位置付けがはっきりして，この次の体系につながると思う。</p> <p>▶イノベーション，ファミリー・フレンドリー，シティカル・ライフが重なっていることや，推進力がどこに働くのか，また，4つの政策分野との関係（4分野の取組をこの3つが押し上げている）など，イメージ図があると分かりやすい。</p> <p>▶仙台・大分と言っても通じる内容になっている。競争戦略上，広島にしかないものを入れた方が良い。</p> <p>▶特に産業分野でのチャレンジは「イノベーション」を強く打ち出して成功しているので，こうした成果や課題を基に新たなチャレンジを打ち出せば，広島県にしかない計画になるのではないかな。</p> <p>▶広島ならではの視点が必要だろう。例えば，イノベーションであれば，新しいことへのチャレンジ精神が元々広島にあって，それがイノベーションを生み，高い県民所得につながっているというストーリー性を見せられれば，そこを更に伸ばそうという取組が，広島ならではの感じてもらえる。</p> <p>▶豊かで便利というイメージが強調され，見直し前のチャレンジビジョンから読み取れた，市民球団や盛んな文化活動などの広島への誇りが薄まる様に感じてしまう。</p> <p>▶世界遺産もあり，プロスポーツも多数あるなどの強みも書き込めば，広島ならではのひとつになるのではないかな。</p> <p>▶シティカルライフ，東京の人なら静岡でも良いと感じるのでは。地勢的な特徴をしっかりと出さないと首都圏や大阪圏の方にとって魅力的な都市とならない。</p> <p>▶県の育児時間が長いことが客観データとしてあるが，企業側の理解が高いなど，その理由を示せば良い。そこを伸ばすことができれば，家族で暮らしやすい環境づくりにつながるのではないかな。</p> <p>▶大都市に比べて広島の通勤が短いことが，育児時間が長いことに影響しているかもしれない。そういった数値データを示すことが大事だろう。</p> <p>▶大都市や全国平均と広島県を比較するなど，エビデンスとなるデータを本文でも示せば分かりやすくなる。</p> <p>▶県民所得は全国8位だが，県外からの雇用所得はマイナスで，利子・配当などの財産所得はプラスとなっている。一方で，その他の移転（税，社会保障の都道府県間のやりとり）が全国でもかなり低位であることから，可処分所得の順位は大きく下がる。高齢化の進行度が中位であることなどが影響しているのだろうが，広島の課題とも言える。</p>

区分	委員意見
	<p>▶仕事も暮らしも充実して、ゆとりあるライフスタイルを実現できるという点、少し落ち着きすぎて、ダイナミックな印象が薄い。若い人がこれを魅力的と感じるか少し気になる。例えば「ゆとりと活気のあるライフスタイル」など、都市の魅力として動的なイメージを出した方が良い。</p> <p>▶産業の活力を生み出すチャレンジ、新しいライフスタイルを生み出すチャレンジ、安心・安全に向けたチャレンジなど、広島県はどの分野でもチャレンジし、県全体を牽引していく姿を見せるのがこのビジョンの位置付けではないか。</p> <p>▶シティカルなど、造語を考えてまで打ち出したいところは、しっかり書き込んで、もっとPRした方が良い。</p> <p>▶アメリカ西海岸の広域自治体が作成したパンフレットに、豊かな自然や食生活を延々アピールした後、「ゆえにIT産業や映画産業が活発である」という展開で紹介している例がある。展開でイメージがガラリと変わるので、参考に工夫してはどうか。</p>
<p>第3章 4つの政策分野の取組方向</p>	
	<p>▶国土利用、用途地域を将来的にどうしていくのかという視点が必要かと思う。</p>

【総合戦略】

区分	委員意見
<p>総合戦略（第2章）</p>	
<p>（しごとの創生）</p>	
	<p>▶正規雇用者という考え方は、イノベーションの視点とは同じ路線ではないと思う。</p> <p>▶今後、非正規雇用者は、3年間同じ仕事をした場合に正規雇用にも組み込まれたり、仕事を変えて非正規を繰り返したりするが、指標として適切なものか。</p> <p>▶量でなく質的な指標はないだろうか。例えば、若い人たちの所得が高いというのは指標にならないか。イノベーションなどの取組により結果として高い収入を得ることにつながっていると思う。</p> <p>▶地域活性化では、空き店舗や空き家を減らすという目標の立て方をするが、この指標についても、失業給付金から状況を把握するなどして、ダイレクトに「若者の失業率を減らす」としてはどうか。</p> <p>▶従来は、薄く広くまんべんなく施策を打ってきたが、重点化することは特徴があると思う。ただ、この指標が適切かどうかは、検討が必要である。</p>
<p>（まちの創生）</p>	
	<p>▶17ページのKPIに、地域ブランド力ランキングとあるが、これは地域の魅力というよりは産品、モノにウエイトが寄っているため、指標として適切ではないと思う。ランキングの判定を見ると、訪れてみたいか、名産品を知っているかといったことで、どちらかというとその地域のモノと観光地としての魅力が判定の材料であり、県が目指している住む場所としての魅力というのはこの指標では分からないのではないかと思う。他に適切な指標がなければ仕方ないが、都市レベルでは色々あると思うが、県レベルで見ると他には無いのかもしれない。</p>
	<p>▶中山間地域のKPIに、地域活動参加している20歳以上の者の割合とあるが、20歳以上としているのはどういう意味か、20歳未満を含めても良いと思う。</p> <p>▶施策・事業がうまくいっていることを検討するための、便宜的に取り出した指標の一つだろうと思う。年齢の幅を広げる、あるいは限定するという必要があれば、今後検討されるものだと思う。</p>
	<p>▶シティカル・ライフの観点から、地域における多様性を一つの指標として考えることができないか。多様な人が集まり、多様な生き方、暮らしが選択できる地域、外からの移住をオープンに受け入れる地域としての懐の深さを見せていくことで、アピールできるのではないか。（土谷委員）</p> <p>▶多様性、流動性の指標として、例えば、留学生の数値等が考えられる。</p>

区分	委員意見
総合戦略（第3章）	<p>▶ チャレンジビジョンは強みが書いてあり、記述も多いが、総合戦略は施策の方向の部分で、全国の中で優位性があるか疑問がある。広島県らしさや強み、新たなアイデアなどを色分けできれば良いと思う。チャレンジビジョンの強みを総合戦略にも書けばよいと思う。新たなアイデア出しが重要だと思う。</p> <p>▶ 「団体や企業等のリーダーによる意識改革」とあるが、リーダーではなく経営者が経営戦略として取り組むことが重要。その上で、効率的な仕事の仕方、評価制度の導入など実践的に取り組むことが重要である。</p> <p>▶ NPOセンターにおいて、ソーシャルビジネスを推進するため、コミュニティ未来創造基金という市民ファンドを造成している。プラチナ大学から一歩踏み出して、先行的な取組につなげることができればよいと考える。</p> <p>▶ 社会的課題を解決しながら、かつ、雇用を生み出すという重要な視点であるため、「産業イノベーション」等に位置付けることを検討してほしい。</p> <p>▶ ソーシャルビジネスでは大きな投資が難しいため、県は、規制緩和による後押しを考えてほしい。</p> <p>▶ 「へき地医療に係る医師等確保対策の推進(P.64)」の指標については、中山間地域における医師の絶対数を増やす観点から、「初期臨床研修医確保数」ではなく、ビジョンに掲げる「県内医療に携わる医師数」にしてはどうか。</p> <p>▶ 「地域包括ケア体制の構築(P.68)」の指標について、「在宅支援薬剤師数」だけではなく、地域包括ケアを支える医師や訪問看護師の他職の指標も挙げた方がよいのではないかと。</p>